

に！

東日本大震災
復興支援
レポート
vol.2



Save the Children JAPAN









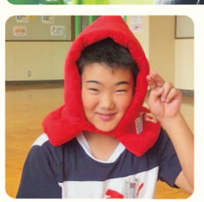


震災から半年。子どもたちがイイ顔、見せてくれました。















「セーブ・ザ・チルドレンがいて、良かった！」
子どもが心からそう思うサポート、続けていきます。

先の9月11日、東日本大震災の発生から半年が経過しました。
被災地の子どもたちのために、継続してご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。
皆さまのご寄付やご協力を受け、私たちセーブ・ザ・チルドレンは、これから５年間、
子どもたちと地域の方々に寄り添い、被災地の復興に力を尽くしてまいります。

この長期支援の決定にあたり、私たちが支援の柱として掲げたのは３つです。
１つ目は、子どもが安心安全に遊べる場所や居場所を被災地域に広げること。
２つ目は、学校内外の学習環境を整え、子どもの学習をサポートすること。
そして３つ目が、「自分たちのふるさとをどうしていきたいか」、子どもたちの意見を聴き、
そして、子どもたちが参加する、地域のまちづくりをすすめていくことです。

今回のレポートは、この３つの柱をもとに、１学期から夏休み明けまでに
実施した主な活動について、まとめています。震災直後から、子どもたちや地域の方々の
ニーズに応えるために、私たちは、ひたすらに支援活動を続けてまいりました。
ですが、ニーズに応えられている面と、まだまだ至らず不十分な面も多々あります。
これからも、ただただ子どもが笑顔になること、それも一時的でなく、
これからもずっと笑顔になってくれることを目指して、真摯に活動を続けてまいります。

これからも引き続き、よろしくお願い申し上げます。

2011年10月　セーブ・ザ・チルドレン

2011年 夏の子どもたち　写真撮影：ZETS,セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ほか

学校の再開から夏休み明けまでの、約４ヶ月間の支援活動を報告します。

震災以来、こどもひろばの設置や学用品の配布などを行ってきましたが、
4月に学校が再開してからは、現地のニーズを聞きながら、
さまざまな支援に取り組みはじめました。その一つが学童保育のサポート。
生活の再建をめざす保護者のニーズにより、放課後の子どものケアを
充実させています。現在、宮城・岩手の6ヶ所で備品の配布や施設の増設・
補修、指導員研修などを実施。支援する子どもの数は合計3,588人です。

＼ 学童再開★ ／



配布した
プールに喜ぶ
学童の子どもたち

2011年

3月 11日 地震と津波の発生 → 4月 → 5月 10日 17日 → 6月 → 7月 1日 2日～8/9 → 8月 10日 → 9月 11日 震災発生から半年が経過

給食支援の開始

給食センターの復旧していない幼稚園と小中学校で、成長期の子どもが少しでも栄養価の高い食事ができるよう補助食品を提供。8月時点で宮城・岩手の5地域93校20,988人を支援。



子どもにやさしい仮設トイレの設置

子どもにとって、場所や雰囲気が安心安全、かつ清潔な仮設トイレを、岩手の3ヶ所に36基設置。「きれい」「くさくない」と子どもから喜びの声があがりました。



夏休み出前講座

短い夏休みを楽しんでもらおうと、企業や他団体の支援や協力をえて、化学・科学実験や音楽、ハンドクラフトなどの出前講座を実施。宮城・岩手の28の学童577人の子どもが参加。



避難所のこどもひろばの終了

震災の発生以来、宮城・岩手の避難所に合計19ヶ所設置したこどもひろば。被災者が避難所から仮設住宅へと移動し、この日、最後のこどもひろばを終了。



バス支援の本格始動

岩手では、いつもの場所で部活動のできない中学生が、練習可能な運動施設や試合会場を往復できるようバスの運行を始めました。

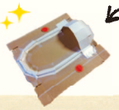


防災ずきんの配布の開始

今後の防災対策のために、防災ずきんの配布を開始。現地では震災後、避難訓練をつづけています。8月時点で宮城の38の幼稚園と小学校7,787人に配布。



＜みんな初めての“和式トイレ”に挑戦！＞ 仮設トイレの使い方の実演



SCJスタッフ渾身作！！
手作りの実演用トイレ



新・こどもひろば へ

今後は、地域における子どもの居場所や遊び場として、宮城・岩手・福島の3県に合計300ヶ所の「新こどもひろば」を設置する計画です。これらは、公園や校庭など既存の遊び場の復旧や新しい公園の設置をふくみます。仮設住宅における集会所や所内の備品の設置、子ども向けプログラムの実施も予定しています。





子どもたちの
居場所の確保に
日々奔走しています。

東日本大震災セーブ・ザ・チルドレンの活動報告

2011年8月末時点で、今後5年間の支援計画の予算として、約50億円のご支援（予定を含む）をいただいており、約４億9500万円を、このレポートでご紹介している活動も含め、さまざまな事業で活用させていただきました。各事業の収支報告に関しましては、2011年度の決算報告書（2012年3月を予定）にてご報告させていただきます。

前ページでご紹介しきれなかった、その他の支援活動

- ☑ 宮城と岩手2県の学童や児童館などで、指導員研修をサポート。指導員86人が参加。
- ☑ 学用品や学校生活に必要な物品を3,390人に配布（8月末時点の実績）
- ☑ キーボードなど、学校備品を4,229人に提供（8月末時点の実績）
- ☑ 東京の学生ボランティアによる、インターネットを活用したオンライン学習支援を実施

今後、特に力を入れていく支援活動

- □ コミュニティ・イニシアチブ（地域NPOとの協働による復興活動）
- □ 福島県の子どもたちを対象とした支援の実施・展開
- □ 奨学金、ＰＴＡ支援、防災教育など、教育支援を展開
- □ 子ども参加による地域復興に関する政策提言（アドボカシー）活動を実施

＊ 今後も、ホームページの活動報告ブログなどを通して、活動の報告をさせていただきます。 **www.savechildren.or.jp**

Save the Children JAPAN

Save the Children Japan Staff Message

震災直後から、たくさんのスタッフがさまざまな思いを持ちながら、支援に携わっています。今回のメッセージはこちらの４人からです。

学校の給食時間、「お昼食べた？」「おなかすいてない？」と子どもたちから逆に声をかけられ、その優しさに感激しました。すれ違う子どもに「いただきます」と言われることもしばしば。これからも子どもたちの笑顔を守っていきます。

徳山 英理子
教育支援担当
（宮城）



震災直後、岩手の避難所で聞いた、「遠慮とか心配をしないで、思いっきり子どもだけで遊べるといいのに･･･」という、ある女の子の言葉が今も私の原動力となっています。これからも、地域の皆さんと一緒に子どもたちの居場所を作っていきます。

森本 美紀
新こどもひろば担当
（宮城）



学童は、学校でも家庭でもない、子どもたちが安心して過ごせる第三の居場所。ご自身も被災した中で、毎日子どもたちと向き合っている指導員の皆さんや行政と協力し、生活再建のために働く保護者の方やその子どもたちを支えていきたいです。

櫻庭 直子
学童保育サポート担当
（宮城）



子どもは、共に社会を創るパートナーです。「自分の意見を話せてよかった！」と子どもたちが自分の思いを伝えられる場であるように、一人一人の思いに寄り添い、そして、子どもたちと共に、活動を続けていきたいと思います。

吉川 恭平
子ども参加によるまちづくり担当
（岩手）



“子どもの参加でより良いまちに”

子どもたちの描く、夢のまち！

Soft
Speaking Out From Tohoku

私たちは、前ページでご報告した支援活動の他に、「子ども参加によるまちづくり」という活動を行っています。プロジェクト名を“Speaking Out From Tohoku～子どもの参加でより良いまちに！～”と言います。

被災地域では現在、復興計画を策定中ですが、その時に忘れてはならないと私たちが考えるのが、復興計画に子どもの声を反映することです。地域の復興は大人だけのものではありません。5年後、10年後、まちを担う子どもたちが、ふるさとをどうしていきたいか。自分たちのことを一番分かっている子どもたちが意見を表明し、地域のみんなが一緒にまちづくりに関わっていく。それをサポートすることが、私たちのミッションです。

実際、この5月に行った調査では、回答をくれた子ども11,008人（有効回答）のうち約9割が、「自分たちのまちのために何かをしたい」という意志を持っており、この声を私たちは、国の東日本大震災復興構想会議と、宮城・岩手・福島の知事に届けました。

さらに6月からは、子どもたち自身が復興に向けたまちづくりを考える「子どもまちづくりクラブ」の活動を始めています。8月時点で、宮城・石巻市、岩手・陸前高田市と山田町にクラブがあり、3地域の子どもが交流し、「夢のまちプラン」を豊かにするツアーも実施しました。参加した子どもたちはツアー後、各地域の教育や行政の関係者、保護者、そして地域の方々を招待して、自分たちのプランを報告しています。

子どもたちの描く夢のまちは、「大人も子どもも過ごしやすい、古いものも新しいものも一緒に、Rock’n Rollのまち（石巻市）」、「生きるだけの町ではなく豊かに暮らせる町（陸前高田市）」、「愛があふれる町～未来・伝統～（山田町）」。これらのコンセプトのもとに、「自分のまちが好き」「まちを戻したい」と強く願う子どもたちが描いたプランは、参加した大人を勇気づけています。11月20日（世界子どもの日）には、3地域合同で各地域の「夢プラン」を発表する「東北子ども会議（仮称）」を開催し、子どもの声の反映されたまちづくりの実現に向け、今後も活動を続けていきます。

まちづくりに関する子どもの生の声を、ホームページ復興支援サイトでお聴きください。 **http://www.savechildren.or.jp/jpnem/jpn/**

山田町



石巻市





陸前高田市





発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル 4F

2011年10月発行　印刷協力：星光社印刷株式会社